

坂の上通信

平成三十年二月十六日
広島市立美鈴が丘高等学校
新聞文化部(四〇三演習室)

第30回合唱祭開催

各クラスとも練習に熱

二月の一大行事、合唱祭が本日午後開かれる。本番まで、ほぼすべての生徒の手で作り上げられるという点で、クラスの団結力が試される行事だとも言える。今回は、数々のドラマを生むこの行事を集中取材した。

先週の放課後から、校舎内に歌声が響き始めた。本で行われる合唱祭の練習だ。どのクラスでも、CDプレイヤーから流れる参考歌をじっくり聴きながら歌っている姿が見られる。

賞は、各学年に金・銀・銅賞。他に全体での最優秀賞(グランプリ)が選ばれる。最優秀賞(グランプリ)はトロフィーが授与され、そこには歴代の受賞クラスとその曲名が書かれたリボンが飾られている。そのリボンに自分たちのクラスも加わろうと、どのクラスも練習に一生懸命だ。



講堂でのリハーサルの様子



校内に響く歌声く練習風景く

※写真は昨年度のもの

組	曲目	一言コメント
1年1組	奏	笑顔咲き 奏でる音色 ワンダフル
1年2組	未来	思いを歌に乗せて届けます
1年3組	いのちの名前	緊張せずに頑張ります
1年4組	桜ノ雨	笑顔で楽しく！
1年5組	証	5組らしさ全開で優勝を狙います
1年6組	青いベンチ	優勝できるように頑張ります
2年1組	あなたへ	皆の心に響く歌を歌います
2年2組	366日	優勝します
2年3組	あなたに	指揮者賞とります
2年4組	結	グランプリとります
2年5組	青い鳥	テンポよくがんばります
2年6組	ハナミズキ	皆でハーモニーを奏でます

各クラスの合唱曲と一言コメント

合唱祭週間に入った先週の金曜日からは、授業時間が45分になり、放課後にある程度の練習時間が確保されている。

「3年生の希望で、合唱祭で歌われた歌を、音楽の最後の授業で歌いました。一緒に絆を深めようと、慈しむように歌っている姿が感動的でした。ただ音取りをして歌うだけでなく、歌詞の意味を理解し、感情を込めて、聴く人が感動するような合唱を作り上げて欲しいと思います。」

平尾先生の話

「3年生の希望で、合唱祭で歌われた歌を、音楽の最後の授業で歌いました。一緒に絆を深めようと、慈しむように歌っている姿が感動的でした。ただ音取りをして歌うだけでなく、歌詞の意味を理解し、感情を込めて、聴く人が感動するような合唱を作り上げて欲しいと思います。」

文化委員長の話

文化委員長の伊藤さんに話を聞いた。

「30周年にふさわしい合唱祭にして行きたいと思っています。そのためには皆さんの協力が必要です。クラスで一致団結して、頑張ってください。私も皆さんを引っ張っていきけるように頑張ります。」

机の上の美術館

今回は、国語科の宮崎先生の机を取材した。写真は、猫のマグカップと先生が飼っている猫「シユリ」の写真である。

宮崎先生は、全部で三匹の猫を飼っている。シユリはオス猫で、下に映っている写真は2000年10月に撮ったものだそう。

「ミウ」は授業中に教室に入ってきた猫で、乱暴者。なりゆきで宮崎先生が飼うことになったらしい。写真のマグカップの猫はこの「ミウ」に似ているから買ったそう。

もう一匹「ボア」というオス猫も飼っている。先生は、この三匹の写真をたくさん見せてくれる。



猫の写真とマグカップ

てくれ、猫が大好きな様子が記者にも伝わってきた。

30周年記念品 配付

創立30周年を記念するマフラータオルが配付された。デザインを担当したのは生物の村井先生にお話を伺った。

「まず色ですが、えんじ色は校旗にも用いられている、美高のイメージ色です。灰色は、最初が美高自慢の白亜の校舎の色を表すため白にしていたのですが、今一つ浮いてしまうので、灰色に変更しました。両端に描かれている羽は校章の一部で、フェニックスの羽ばたきを表現しており、中央には新制服についている新しい校章を置きました。デザインするにあたって、インターネットでJリーグのマフラータオルを調べ、参考にしました。10種類ほどのデザインを頭



30周年記念のマフラータオル。全校生徒に配付された

編集後記

本番では練習の成果を十分に発揮し、今まで一番良い合唱を作り上げて欲しい。

(日高優美)

美・鈴・鈴・鈴

今年も各クラスで歌声が響いている。美高の合唱祭は本日午後から行われるが、近隣の学校ではもう終わっているようだ。廿日市高校や井口高校では、6月の半ばに合唱祭が行われる。また文化祭と合同で行う学校も多いらしい。▼美高では2月に行われるが、その理由は「3学期に行う行事が少ないから」というのが大きいそう。6月になると文化祭と合同になり、準備も非常に忙しくなるため、3学期に設定したという。▼日本で合唱コンクールが行われるようになったのは、昭和以降だ。作曲家の小松耕輔が欧米の合唱コンクールを見て、日本に持ち込んだのがそのきっかけとされる。結果、1927年に国民音楽協会が設立され「第一回合唱競演大音楽祭」という合唱コンクールが開かれた。そこから多くの合唱コンクールが生まれたという。▼高校卒業後に合唱を経験する機会は少ない。一回一回の練習を大事にしていきたい。